

神社の杜(二十六)

御岳ヒジターセンター

片柳 茂生

「猪とらさんとオオカミ」

よう！皆の衆、久しぶりじゃな。今回はこの天狗が、御岳山に伝わる昔話を二回にわたって語ってしんぜよう。題はな、「猪とらさんとオオカミ」じゃ。それでは始めるぞ。

むかし、むかし、日の出村に、一人の腕のいい猟師さんがおったそうじゃ。大きなイノシシも一発でしとめてしまう名人だったので、村の人からは、猪とらさんと呼ばれておったそうじゃ。その猪とらさん、色々な獣を獲って暮らしておったが、オオカミだけは撃つことがなかったそうじゃ。なぜならオオカミは、御岳山の神様だから撃つと祟りがあるという言い伝えをまもってきたからじゃ。



イラスト 井口三月

さてある雪の降った日、猪とらさんは狩りに出かけた。普段なら大きなイノシシやクマが獲れるのに、この日に限ってウサギすら獲れなかった。獣を探しながら、日の出山を越え、御岳山を通り過ぎ、とうとう大塚山まで来てしまった。その日はとうとう一匹も獣に出くわさなかった。日も暮れかかってきたので猪とらさんは、しかたなく家に帰る事にした。猪とらさんは山に入って鉄砲を一度も撃たずに帰ったことが今まででなかったので、物足りない思いで歩いていった。



帰り道の途中にあるお墓を通り過ぎようとしたその時、猪とらさんは墓の中になにやら獣の気配を感じた、立ち止まってよく見ると一匹のオオカミが目を見光らして墓石のそばに座り、猪とらさんを見ていた。「おや、あそこにいるのはオオカミではないか。やっと獣に出会えたのにオオカミでは仕方がない。」そうつぶやき歩き始めようとした。しかし、今日は一度も鉄砲を撃っていない猪とらさん、撃つてはいけないと知っていながらも、鉄砲を撃ちたくって撃ちたくってしかたなかった。猪とらさんは我慢できずに、オオカミめがけて鉄砲を一発うってしまった。するとそのオオカミの後ろにあった墓石がみんなオオカミになり、いっせいに目を光らせた。猪とらさんは怖くなってもう一発オオカミめがけて鉄砲を撃った。するとオオカミたちは、みんな散らばって山の中に走っていったのだが、その時のうなり声山中に響き、まるで山鳴りのようになった。驚いた猪とらさんは、その場で腰を抜かしてしまった。

(つづく)

今回はここまでとして、このつづきはまた別の日に語るとしよう。みんな楽しみに待っておれよ。

あとがき

春号では「御嶽神社あれこれ」の中で御嶽の歴史や、講中、太々神楽、御師の意味など、よくあるご質問に少しずつ答えて行く予定です。新緑の御岳山は春山といわれ、ご講中始め多くの方が訪れます。誰でも参加できる行事もありますので社務所にお問い合わせ下さい。

戸田市新曽馬場講元元小山 傳一様には玉稿を賜りありがとうございます。

表紙写真 鈴木 新吾
ヒメイワカガミ
科名 イワウメ科
属名 イワカガミ属
分布 東北地方南部〜中部地方
日当たりの良い山地の岩場に貼り付くように自生し、群落を作っている。五月の上旬になると、先が細かく裂けた濃いピンクの花が岩肌を染め、照った葉とのコントラストも良い。御岳山周辺では自生地が限られ、目にとまる機会は少ない植物である。

平成十八年三月三十日発行
(年二回発行・非売品)
編集 武蔵御嶽神社
印刷 綏成和印刷
TEL(049)6(7) 八五〇
FAX(049)6(7) 九七二